

資料 1

教育総務課

令和2年度施政方針（教育総務課所管箇所抜粋）

第2部 子どもが生きる学びと文化のまちづくり

情報教育の推進につきましては、これまでと同様、電子黒板・デジタル教科書を活用し、児童生徒の学習への興味、関心を高めながら学力の定着及び向上を図るとともに、今年度に更新するパソコン教室においては、アダプティブ・ラーニング機能を搭載したデジタル教材を整備することで、個に応じた学習機会の場を提供し、より一層の学力の定着及び向上を図ってまいります。（教育ICT班）

学校現場の業務改善の一環といたしまして、教員の業務支援を行うスクールサポートスタッフを新たに配置し、教員が児童生徒への指導や教材研究を十分に行うことのできる体制を支援してまいります。（総務班）

また、生活保護世帯の学生に対し、修学上必要な経費を返還不要の学資として給与するとともに、他団体の奨学金制度を踏まえ育英会事業の在り方について検討してまいります。（総務班）

教育部教育総務課 令和2年度主要事業

※予算額のカッコ内は平成31年度当初予算額及び比較増減

10-1-2 事務局費

1 フッ化物洗口事業 135千円(81千円 54千円増)

フッ化物を活用した虫歯予防法で、フッ化物を溶解した洗口液でうがいをを行う「フッ化物洗口」を座安小学校とよみ小学校の1・2年生の2学年で実施する。

10-1-4 教育振興費

1 教育支援体制整備事業 24,227千円(新規皆増)

教員の負担を軽減し、教員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備するため、教員の事務補助を行う、スクール・サポート・スタッフを各校1名ずつ配置する事業。

2 GIGAスクール整備事業(ネットワーク) 92,156千円(繰越分)

“(キャビネット) 72,816千円(繰越分)

“(備品購入費) 385,701千円(新規皆増)

“(支援員配置) 6,325千円(新規皆増)

児童生徒の1人1台端末整備を前提に校内のLANケーブル等の通信ネットワークとタブレットの電源キャビネットを整備することで、多様な子供たちの学びの環境を整備する。

また、新型コロナウイルス感染症の影響拡大で令和5年度に達成するとされている端末整備を前倒し、令和2年度に児童生徒の1人1台の端末整備と、学校現場が急速な学校ICT化に対応できるようICT支援員を配置する。

令和2年度 教育部 教育総務課 組織図
 (Tel 098-850-0961 ・ fax 098-850-1860)

管理職	班名 班長名 等	班員	主な事務分掌
課長 赤嶺 太一	教育総務班 班長 大城 竜也 教職員人事 教育委員会関係	主査 門馬 真規	育英会、業務改善等
		主任主事 皆川 義文	学校予算、衛生管理等
		主任主事 古堅 あずさ (産休)	会計年度任用職員、マ
		会計年度任用職員 渡口 純子	イクロバス管理等
	会計年度任用職員 広松 佑里香	文書集配 等	
	教育ICT班 班長 安谷屋 悠貴 教育ICT等	主査 仲村 光春	教育ICT等
		会計年度任用職員 國吉 信幸	情報教育補助員
		会計年度任用職員 黒島 由美子	情報教育補助員

令和2年5月21日(木)作成

令和2年度 第1回豊見城市総合教育会議

教育総務課

議題

【市内小中学校における新型コロナウイルス感染症に伴う休校明けの対応について】

○総務班

①学校再開後における感染予防策として、登校時に児童生徒の検温や体調管理を行う必要があるため、限られた時間で児童生徒の検温を行うのは厳しいことから、専任要員を各校1名ずつ要望したい。

また、非接触型の体温計の配布も予定しているが、入荷が未定となっており、配布できていない。

②フッ化物洗口の実施を4月から予定していたが、洗口液を吐き出す際のしぶきで感染する恐れがあるため、一時中断とし、再開時期については、状況を見ながら学校関係者と協議して再開する予定。

③校外活動等でのマイクロバス使用を再開。

※小中学校の授業が再開され、校外活動や中学校における部活動も再開していくこととなっており、送迎で使用するマイクロバスの消毒を送迎の度に行う必要がある。なお、マイクロバスの運転手を派遣している豊見城市シルバー人材センターへは、令和2年5月20日付、「新型コロナウイルスの感染防止対策の徹底について（依頼）」の文書にて、マイクロバスの消毒について協力依頼済。